

土地整理土木工事業における掘削用機械を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時 間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
6	8 ～ 9	盛土の現場において、地盤改良のセメント攪拌作業のため、バックホウバケットでの攪拌を指示していたが、指示に従わず、フォーククローに交換しようとバケットを外し、クローに交換中、クローが突然開き、被災者の左足にぶつかった。その際、安全靴を着用していたが、甲に当たった。	58	1 ～ 9
7	10 ～ 11	カート脇の法面整形の作業中に、法面上部の作業を行うため（約2.1m）、法面をミニユンボでのぼって行き、頂上付近に差し掛かったときにキャタピラーが滑り、機体を修正しようとしたときにユンボが左方向に横滑りし、そのまま横転した。	68	10 ～ 29
9	13 ～ 14	造成地現場に市道より進入路の作業中、鉄板を敷く為に、バックホーにて釣り上げた際に少し揺れて、バックホーの右横に立っていた従業員の左足人差し指に怪我をさせてしまう。排土壁板に接触、被災者が危険過ぎる位置にいた、バックホーの運転者の慣れと安全確認の怠慢による。	45	10 ～ 29
10	11 ～ 12	農地集積加速化基盤整備工事の作業中、不整地運搬車荷台の上にコンクリート側溝が積まれている状態で、荷台から重機（0.25㎡）バックホーで側溝を下ろす作業中に、2人の作業員が荷台に乗り、当人は重機オペレーターに対して右側にいた。左側の作業員は合図に従い離れていたが、当人は合図が見えなかったため合図に気づかず、コンクリート側溝を押さえていた。そのまま側溝をスライドさせてしまい、指を不整地運搬車の後部ドアに挟まれた。	62	1 ～ 9
11	11 ～	被災者を含む5名でUV管布設の為、道路の法面を深さ1.3m掘削し、シーティング（簡易土留め：高さ2.5m、幅1.2m、長さ3m、重さ1.6t）を設置する作業をしていた。被災者がシーティング上に乗っていた泥を落とすため下に置いているほうきを取ろうと右手	39	1 ～

をシーティングにかけ左手を伸ばしたところ、右手の指先が0.45tバックホウで設置中のシーティングと設置済みのシーティングに挟まれ被災した。バックホウからは死角になっていた。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html